

◆9月定例会における決算特別委員会（分科会方式）の振返りについて

○各会派等からいただいた意見

説明内容の簡素化・統一化が必要

委員長報告についての検討が必要

決特の開催方法を今回変更した主なる目的は、予算が適切なものであり、的確・適正に執行されているか早期に状況を把握した上で、その結果を踏まえた対処法を次年度の予算要求に反映させるということであり、理事者側に対して本会議での委員長報告だけでなく、それを基にした常任委員会での予算審議でもう一步反映させる方法論も含め、検証・検討することが必要ではないか

従来の方法と比較して審査を大勢で行った訳であり、形だけ開催方法の変更を行ったことにならないためにも、結果としてそれなりの意見が出たのか、従前との比較検証することが必要ではないか

今までの数名による常任委員制よりも、分科会方式にすることによって全議員が参加できること、各常任委員会単位で審査することは、専門性を発揮でき、より詳細な部分まで審査の目が行き届くと思われることから効果があったものと思料する。

一方で分科会の委員長報告について、再度分科会で意見調整や擦り合わせの日程確保が必要ではなかったかと感じた